

各位

2011年10月5日
SBI アラプロモ株式会社

第70回日本癌学会学術総会でのALAに関する研究発表のお知らせ① ～ALAに担がんマウスでの延命効果を発見～

SBIホールディングス株式会社の子会社で5-アミノレブリン酸(ALA)※1を利用した化粧品、健康食品、医薬品の研究・開発等を行っているSBIアラプロモ株式会社(本社：東京都港区、代表取締役執行役員CEO：北尾吉孝、以下「SBIアラプロモ」)は国立大学法人東京工業大学(所在地：東京都目黒区、学長：伊賀健一)との共同研究において、ALA投与が担がんマウスの衰弱を抑制し、延命の効果があることを発見いたしました。

このたび、本研究結果を2011年10月4日に開催された第70回日本癌学会学術総会にて発表いたしましたのでお知らせいたします。

本研究ではBALB/cヌードマウスに人由来の前立腺がん株PC3を移植し、ALAと鉄の混合剤を投与したマウス群と水を投与したマウス群を比較したところ、移植したがんのサイズに有意な差は認められないが、ALAと鉄の混合剤を投与したマウス群では、死亡もしくは極度の衰弱を示す個体数が水を投与したマウス群より有意に少ないという結果が見出されました。また、がんを移植しないマウスでの実験においては、ALAがミトコンドリアのエネルギー生産活性を向上させることも示されました。

ALAは、単独投与とその後光照射でがんの位置を診断でき、また、光照射で発生する活性酸素でがんを治療できるため、光動力的治療や診断※2の光増感剤として注目されていますが、今回の実験では光照射は行われておらず、ALAと鉄の混合剤が正常細胞のエネルギー産生を活性化することでがんの進行に伴う衰弱を抑制したものと考察しております。

人への応用は今後の課題ではありますが、がんと戦う多くの患者様のお役に立てるよう、ALA研究に一層努力してまいります。また、ALAの研究成果と最新情報は、ALApromo研究所(URL：<http://www.ala-plus.jp/>)からも発信してまいります。

用語解説

※1 体内のミトコンドリアで作られるアミノ酸。ヘムやチトクロムと呼ばれるエネルギー生産に関与するタンパク質の原料となる重要な物質ですが、加齢に伴い生産性が低下することが知られています。ALAは、焼酎粕や赤ワイン、かいわれ大根等の食品にも含まれるほか、植物の葉緑体原料としても知られています。

※2 光動力的診断（PDD）、ALA を摂取し青い光を照射すると、がんが赤く蛍光を示す。脳腫瘍の術中診断薬として SBI アラプロモがドイツより導入を計画し現在第Ⅲ相試験中。光動力的治療（PDT）ALA を塗布後、赤い光を照射して発生する活性酸素でがんを殺す手法。欧米では皮膚がんの治療として認可されており、傷跡を残さない美容上優れた治療法として注目されています。

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせ先：

SBI アラプロモ株式会社 経営企画部 03-6229-0095